



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2025.11.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ (info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

指とことばと脳の関係とは？



ある悩み
に苦しんだ

写真のハリウッドセレブはある共通の悩みが
ありました。それは何でしょうか？

「失読症」です。自分で字は書けても、それ
を読むことがむずかしい。だから台本を頭に入
れる時にはすごく苦勞します。

失読症は脳の障害です。「書きことば」という
視覚情報と、「話しことば」という聴覚情報がう
まくリンクしていません。

しかし「なぞり書き」をすれば読める場合も
あるといいます。つまり、

目と耳を「指の動き」がつなぐ

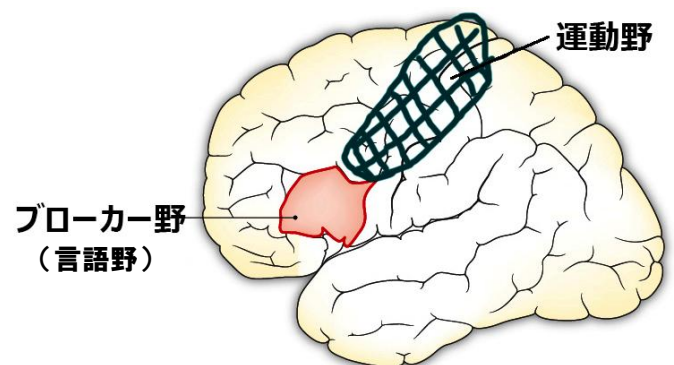
のです。

話題は変わりますが、次のようなことを聞か
れたとき、どのような行動をとりますか？

たんじょうびの 「たん」って どう書くんだっけ？

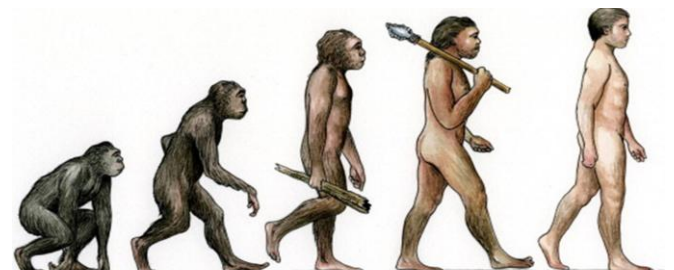
おそらく、指を中空に漂わせて「ごんべんに
…」と空書き（空書）をするでしょう。

指の動きをつかさどる脳の「運動野」と、言
葉の働きに関する「言語野」は隣り合っており、
密接に連携しているといわれています（「空書の
脳内メカニズム」松尾 香弥子著、風間書房）。



ときどき「うちの子どもは言葉が遅いのです
が大丈夫でしょうか？」という質問があります。
多くの場合、身振り手振りが出ていれば、それ
ほど心配しなくてもいいですよ、ちょっと観察
してみてください、と伝えています。

ことばを獲得する前の状態では「手で考えて
いる」ともいわれます。それは進化の過程から



四足歩行

二足歩行

親指分離

ことば
の獲得

もうかがえます。

人類は四足歩行から二足歩行になり「手」が解放されます。さらに親指が分離して、モノをつかむようになりました。またその大きく発達した親指を他の指と向かい合わせることで、細かな道具を扱えるようになったのです。

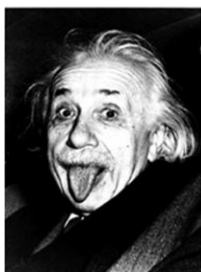
そうした手・指の複雑な動きで、非言語コミュニケーションをし、その延長に「ことばの獲得」があるといわれています。

ところで「本を読む本」というタイトルの書籍をご存じでしょうか？アメリカの大学ではこうした本で、「本の読み方」を教えているそうです。

一番のポイントをあげると、「消極的読書ではなく、積極的読書をしなさい！」ということになります。積極的読書とは、手を動かしメモを取りながら本を読むことです。ただ読むだけ（インプットのみ）の読書を消極的読書と呼んでいます。



ダ・ヴィンチ



アインシュタイン

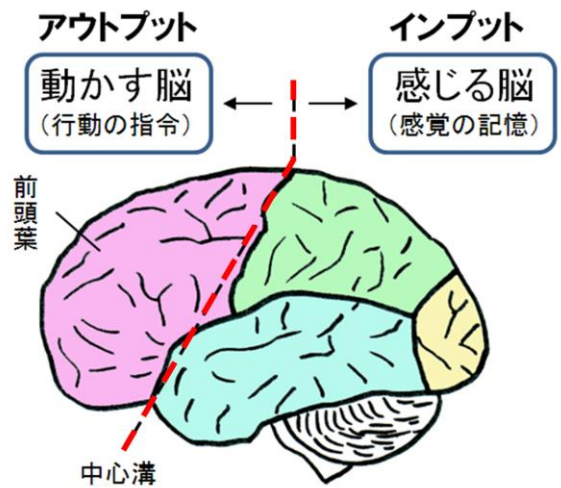


エジソン

偉人たちが残した書籍

実際、偉人たちの残した蔵書の余白には、メモがぎっしり書き込まれていたそうです。本の内容に触発され、自らのアイデアを忘れないように書き留めていたようです。

脳は全的に使っているときが、最も活性化されます。よく「左脳・右脳」と分別されますが、「前脳・後脳」という分類もあります。



中心の溝より後ろの部分は「感じる脳」（感覚のインプット）で、前の部分が「動かす脳」（アウトプット）です。手を使ってアウトプットすることで思考が深まります。

記憶する（インプット）だけではいけないのです。**思い出す**（アウトプット）ことが重要であり記憶も定着します。

幼児教育の現場では、子どもがしっかりと遊び込めているか、手が動いているかがひとつの観点になります。楽しく遊んでいるうちに、自然とことばも出てきますし（外言）、さらに自分の内側に向かうことば（内言）が発達し、じっくり考えるようになります。遊びはとても大切なのです。（終）